

学校だより

四日市市立八郷小学校発
平成24年2月7日発行

《 No.26 》

【子どもたちの地域貢献】



2月4日（土）、11時に20人ほどの6年生の有志が集り、伊坂台通学路の壁面の落書き落としをしてくれました。

壁面は、長年の汚れとコケが付着し、その上に落書きが一面にされていました。そこを子どもたちがモップやたわしを使って、一生懸命に削り落としてくれました。自分たちの背も届かない高い場所も含めて約20mほどの長さがあったかと思いますが、1時間の作業で見違えるほどきれいになりました。

発案をしてくれた子は右の二人の6年生です。



通学路を通るたびに、「汚い、不愉快な言葉」が目につき、「何とかしたい」と思っていたそうです。そして、母親に相談し、担任に相談し、学級のみんに呼びかけ、今回の活動となりました。

この活動は、「八郷小学校が育てようとする子どもの姿の素晴らしい表れである」と校長としてたいへん感激しています。大げさではなく、37年間の教員生活の最大のプレゼントであると思っています。

八郷小学校の「めざす子どもの姿～かしこく、あたたかく、たくましい子」です。正に、この姿が今回の活動であると思います。

汚いもの、不愉快なものを嫌い、自分たちの手で良くしたいと考える。それを相談する。呼びかける。賛同する子が共に取組む。6年間の学習が知識の量だけでなく、生きて働かせ行動する。この取組みには、伊坂台の子どもだけでなく、他の地区の子どもたちも参加してくれました。

そして、素晴らしいことはもう一つあります。

それは、相談された保護者が「担任に相談してみたら」と言ってくれたことです。もし、相談されたとき、「なぜあなたがするの」「止めときな」と答えたら、この活動はありませんでした。また、当日の活動を「見届け」ていただいたことです。参加した子どもたちは、自分たちの行動が保護者の見届けにより、より素晴らしさを確信できたと考えからです。

今年の6年生は、「バスマーク活動での復興支援」「地域行事への積極的参加」また、今回の活動と、「貢献することの大切さ」を、身を持って表現してくれました。

私たち教員にも勇気と意欲を与えてくれた活動でした。子どもたちに、保護者の方に感謝を申し上げます。

【避難訓練～朝明川の氾濫、津波が川をさかのぼることを想定して～1/13】

東日本大震災の経験から、学校での避難訓練の方法の見直しが進められています。

今までの避難訓練では、「火災による避難」「地震による避難」が中心であり、校舎から運動場への避難をされることがほとんどでした。三重県を含む東海地方でも、東海・南海地震の発生が懸念されています。今までの避難訓練で、子どもたちの安全を守ることができるかどうか疑問視されています。



<運動場避難後、再度、校舎内へ>

三重県の教育委員会では「学校における今後の防災対策・防災教育のあり方についての指針」、

裏面に続きます

四日市市教育委員会では「学校防災対策ガイドライン（仮）」なども出され、学校の防災教育の見直しが求められています。

八郷小学校の近くの学校でも、立地条件が様々です。近鉄沿線の近くの小学校は、たいへん低いところにあります。高台にある学校もあります。本校では、朝明川の近くにあり、朝明川の川底より3m高い場所に立地しているという条件です。それぞれの小学校の立地条件が異なりますので、学校独自の防災マニュアルが必要になります。

今回の避難訓練では、次のような想定で実施しました。

地震の発生→運動場への避難→津波が朝明川を上流に向かっていく→校舎の被害状況を調べる→2階以上の校舎に避難

今までのように一度の避難だけでなく、二度の避難移動、被害状況の確認、子どもたちの人数確認など、これまで以上に、話をしっかり聞くこと、すばやく移動することが求められます。中には怖い思いをさせてしまった子どももいるかと思います。しかし、本当に役立つ避難訓練、自分の命を守る行動力を身につけていくためには、緊張感を持って取り組む必要があります。学校としても、いろいろな状況を想定しての避難訓練を実施していきたいと考えています。

また、体育館は四日市市の「指定避難所」になっています。そのため、八郷地区の地域防災担当の皆さんともいろいろな場面を想定しての話し合いが必要になろうかと思っています。

- ・避難者の受け入れと学習環境の確保
- ・子どもたちの下校時に発生した場合の対応
- ・保護者の皆さんへの八郷小学校防災マニュアルの告知
- ・避難が長期化した場合の対応 などなど

四日市市教育委員会の方針、地域防災との連携、コミュニティスクールとしての地域の方々の意見などをもとに、実行ある防災計画を作成していきたいと考えています。

《昔の遊びを教えています》

3学期に入って、各学級で取り組んでいる「業間の大縄跳び」は、1月23日～2月3日までの2週間、記録会を設定し、学級全員での大縄跳びに挑戦しています。心を一つにして、それぞれの学級が記録を伸ばしてほしいと思います。

一方、学校で一番年長の校長として、大縄跳びの時間とずらして「昔の遊び」を教えています。コミュニティスクールの協議会の皆さん、地域の皆さんの協力をいただき、「学校資料室」を開設しました。一つの教室では、展示物でいっぱいになってしまいますので、となりの空き教室を「昔の部屋遊び」のスペースとして作りました。また、外遊びのコーナーとして、児童玄関のところに遊び道具を置きました。子どもたちは、昔の遊びはほとんど経験がないため、「昔とった杵柄」を發揮しているところです。

2月には、3年生が地域のお年寄りの方から「昔の生活や遊び」についての聞き取りの学習を行います。そのときの参考になればと考えています。また、ボールを使っている遊びが中心になっている休憩時間の過ごし方の幅が少しでも広がればと考えています。

＜たたきゴマ＞



桜の木の枝を円錐形に削った木を、竹の先に付けたひもでたたいて回すコマです。

たたけばコマが移動していきますので、追いかけてたたきます。空振りが続けばコマが止まってしまうので、正確さと体力のいる遊びです。

この後も、「こままわし」「ビー玉」「竹とんぼ」などを「伝授」していきたいと思っています。